



薬剤耐性による年間 50 万人の死亡、ワクチンで回避できる可能性

薬剤耐性（AMR）の脅威に対しては、軽減に向けた取り組みで科学が追いつきつつある。BMJ 誌に掲載された新しい研究によると、既存のワクチンを効果的に使用し、優先的な病原体に対処する新しいワクチンを継続的に開発・適用することで薬剤耐性株を減じ、2,800 万の障害調整生存年（DALY）が回避されることが示された。

10 人中 7 人がたばこ規制措置で守られている

第 9 次 WHO 報告書は、WHO タバコ規制枠組条約（FCTC）に基づいた最も効果的な需要削減策を実施するための各国の取り組みをまとめている。

健康とウェルビーイングのための良好な都市ガバナンス：「都市におけるオペレーション・リサーチの段階的アプローチ」

集中的な都市の成長は不公平感や社会的排除を増長し、それが社会的、環境的、経済的、健康的リスクの増大と関連することが知られている。今回示された「段

階的アプローチと指標」は、都市化の影響評価の確立と、都市の健康とウェルビーイングのための OR として、都市ガバナンスをより広い視野で理解し捉えることができる。

エルニーニョ：公衆衛生状況分析

この公衆衛生状況分析（PHSA：Public Health Situation Analysis）は、世界的なエルニーニョによる、脆弱な人々が直面する可能性のある健康への影響を明らかにするもの。WHO は、エルニーニョに関する国連全体の調整・監視メカニズムの一翼を担い各国を支援している。

COVID-19 に関する常設勧告：IHR（2005）に従い WHO 事務局長が発行

国際保健規則 IHR（2005）の規定に従い、WHO 事務局長から常設勧告が発行された。COVID-19 に関する科学的原則とエビデンスに基づくこの常設勧告は、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態への対応を支援するために必要かつ適切なもので、各国に新型コロナウイルス感染症に関する計画と政策を、必要に応じて改訂し、実施することを推奨。

スーダンの悲劇を終わらせるための行動を求める機関間常設委員会 IASC の原則声明

スーダンで活動する人道支援団体（国連人道問題調整事務所、WHO など 20 機関）の世界的リーダーたちはスーダンの住民、紛争当事者、そして国際社会に対しメッセージを発表。

エボラウイルス病とマールブルグ出血熱の感染予防と管理ガイドライン

WHO のエボラウイルス病とマールブルグ出血熱の感染予防と管理ガイドラインは、11 の新しい勧告と 10 の新しいグッドプラクティスステートメントが記載されている。

鉛への暴露：公衆衛生上の重大な懸念（第 3 版）

この文書は、鉛中毒への介入と意思決定者向けの具体的な行動に関する最新情報とガイダンスを提供。

オミクロン株の新たな派生型 EG.5（通称エリス）を「注目すべき変異株（VOI）」に指定

注）本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



WHO は現段階では公衆衛生上の脅威がより大きいとはみなしておらず、EG.5 と重症化率上昇の間に、直接の因果関係を証明する要素はないとしている。

伝統医療グローバル・サミット 2023

初の「伝統医療グローバル・サミット」2023 が開催され、伝統的、補完的、統合的医療の有効性、安全性、質について、より良いエビデンスを得ることが極めて重要であること再確認。

デジタルヘルスに関する新たなグローバル・イニシアティブ

WHO と G20 は、G20 サミット保健大臣会合において、デジタルヘルスに関する新たなグローバル・イニシアティブ (GIDH) を発表、測定可能な成果を達成することを目指している。

エビデンスに基づく意思決定ツール、WHO オンラインリポジトリ 研究エビデンスの創出と活用のための厳格で体系的かつ透明性の高い手法を適用することを支援することを目的として、政策・行動サイクルに焦点を当て、エビデンスに基づいた意思決定ツールである WHO オンラインリポジトリを開始。

WHO 世界の水・トイレ・衛生設備 (WASH)、2022 年度年次報告書

本報告書は、水・トイレ・衛生設備 (WASH) に関する世界的な活動をまとめたもの。

COVID-19 パンデミック後の予防接種率の追い上げ：公平な回復を達成するための進展と課題

WHO とユニセフは共同で、加盟 195 カ国の世界予防接種率推計 (WUENIC) を発表。

Covid-19 関連、3 件のライセンス契約発表：技術アクセス・プール (C-TAP)

C-TAP (医薬品・ワクチンのみならず、COVID-19 に関わる様々な知的財産権をプールし、技術を共有し、世界全体で公正なアクセスを保障するために作られた WHO のイニシアチブ) は、医薬品特許プール (MPP) を通じ、新たに獲得した 3 件のライセンス契約を発表。

母乳育児、ユニセフ、WHO 共同声明

ユニセフと WHO は共同声明を発表。「働

きながら母乳育児を続けられる社会へ」を推進。

WPRO：未到の人々に到達するための地域的枠組み (2022～2030)

手の届かない人々に手を差し伸べる (Reaching the unreached) ことは、世界的および地域的な保健政策の優先事項です。加盟国はビジョン「将来のために (For the Future)：最も健康で安全な地域に向けて」を承認しました。

アフガニスタンの人道的保健緊急事態に警告

WHO は、アフガニスタンにおける保健医療サービス提供への投資拡大を求める新しいアラートを発表。

ポリオ：国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) を継続

国際保健規則 IHR (2005) に基づく緊急委員会は全会一致で、ポリオウイルスの国際感染拡大のリスクは依然として国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) であることに同意し、暫定勧告をさらに 3 カ月間延長するよう勧告。

8月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・ギラン・バレー症候群 ・A型肝炎 ・D型肝炎 ・E型肝炎 ・HIVとエイズ ・B型肝炎 ・乳がん ・大腸がん
- ・多耐性淋菌感染症 ・ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) ・HTLV-1ウイルス ・多嚢胞性卵巣症候群
- ・関節リウマチ ・予防接種率 ・C型肝炎 ・性感染症

9 月
September

結核の感染予防対策運用ハンドブック

WHO は、結核 (TB) 感染の予防と制御に関する運用ハンドブックを発表。

大気汚染と健康に関する医療従事者向けトレーニングコース

大気汚染は世界的な健康問題で、虚血性心疾患、脳卒中、慢性閉塞性肺疾患、肺がん、肺炎などの急性呼吸器感染症による早期死亡の原因。

国連「ニュー・スペシャル」誌が Health4Life Fund を特集

ヘルス 4 ライフ基金は、早期の生命損失、過度の苦痛、有害な社会経済的影響を削減するため WHO、UNDP、ユニセフなどによって 2021 年に設立。保健関連の SDGs 目標を達成するのを支援・促進。

OpenWHO の新コース

WHO 無料学習プラットフォームは 71 の言語にまたがる 230 のコースとリソースを提供し、新たに 9 コースを追加。現在、日本語でアクセスできるコースはコロナ関係の 3 種。

WHO、自殺の予防と非犯罪化に関する最新リソースを発表

WHO、自殺予防の取り組みを強化するため 2 つの資料を発表。

UHC グローバル監視報告書 2023

WHO と世界銀行は共同でレポートを発表。UHC に優先順位を付けて投資する緊急の必要性を強調。

眼の健康と仕事の世界 (報告書) : ILO / IAPB

ILO と国際失明予防協会が作成した新しい報告書では、労働者の目の健康、ウエルビーイングを守るために、世界で連携する必要性を強調。

患者安全の権利に関する新憲章

WHO が主催した患者安全と患者参加に関する世界会議は、幅広い利害関係者の合意を得て、史上初の患者安全権利憲章を採択。

発達障害児の健康ニーズ

WHO とユニセフが発表した新たな報告書では、子どもや若者の発達障害のグローバルな蔓延を浮き彫りにし、社会レベルでの変化を加速させるための行動を呼びかけ。

WHO、高血圧の壊滅的影響とその対策、初の報告書

高血圧が世界に及ぼす壊滅的な影響に関する報告書を発表。

NCDs とメンタルヘルス状態の予防と管理を強化するための多部門行動に関するグローバル・マッピング報告書

NCDs やメンタルヘルスに取り組むための多方面にわたる活動を実施している様々な国、地域、地域の経験を記述しマップ化。

WHO : パンデミックやエピソードの可能性がある病原体に関する国家ゲノムサーベイランス戦略の策定を支援するガイド

本ガイドでは、国家戦略を策定するための重要な検討事項とアプローチを概説。

電気・電子廃棄物と子どもの健康 - 第 2 版 -

e-waste に含まれる化学物質への急性および慢性的な曝露に関連する可能性のある疾病と介入について解説。

人間を対象とする健康関連研究の倫理監視をベンチマーク

「人間を対象とする健康関連研究の倫理監視をベンチマークするための WHO ツール」を発表。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



芸術の健康効果に関する画期的な研究シリーズ

WHO と Jameel Arts & Health Lab は「芸術の健康効果に関するランセット・グローバル・シリーズ」を発表。

安全でない水・トイレ・衛生設備：持続的な健康負担

WHO Bulletin (Sept.2023) では、安全に管理された水・トイレ・衛生設備 (WASH) へのアクセスを改善は、的を絞った投資、ガバナンスの強化、データの最適化、飲料水と衛生基準の遵守を通じて、迅速な進展の可能性を強調。

世界の男性の3人に1人が性器ヒトパピローマウイルスに感染

The Lancet Global Health 誌は、15歳以上の男性のほぼ3人に1人が、少なくとも1種類の性器ヒトパピローマウイルス (HPV) に感染しているという新しい研究を発表。

国連総会で世界の公衆衛生にかつてない焦点

第78回国連総会に出席する指導者たちに対し、「Health for All」を最高の政策に据え、COVID-19 パンデミックから学んだ教訓を生かすよう呼びかけ。

国連ハイレベル会合：パンデミック

への備えと対応に関する政治宣言を承認

パンデミックへの備えと対応に関する、国連加盟国による政治宣言を承認。

WHO、WIPO、WTO、グローバルヘルスの課題に対する統合的解決策の支援に向けたコミットメントを更新

WHO、WIPO、WTO の事務局長は、将来のパンデミックによりよく備えるために、TRIPS (知的所有権の貿易関連の側面に関する協定) の柔軟性をより効果的かつ持続的に活用するための支援を強化・拡大することに協力の焦点を移すことに合意。

赤十字と WHO：自然災害や紛争による死体に健康リスクはないと発表

「エボラ出血熱やマールブルグ病、コレラなどの感染症で死亡した場合や、これらの感染症の流行地域で災害が発生した場合」を除き、自然災害や武力紛争で負傷して死亡した人々の遺体が、地域社会に健康上の危険をもたらすことはほとんどない。

UHC の新たな政治宣言を採択 (国連ハイレベル会合)

「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)：ポスト COVID 世界における健康とウェルビーイングのための野心の拡大」に関する新たな政治宣言を承認。

結核撲滅のための政治宣言を採択 (国連ハイレベル会合)

結核の蔓延終結に向けた世界的な取り組みを前進させるため、今後5年間の野心的な新目標を盛り込んだ政治宣言を承認。

世界でコレラが急増

2022年にWHOに報告されたコレラ患者数は、2021年の2倍以上。2023年の現在のデータでは、この世界的な急増が続いていることを示唆。

WHO 小児がんイニシアティブ：5年間のレビュー

このレビューでは、先駆的な国々が行ったコミットメントと行動を高く評価し、小児がんのモニタリングと必要不可欠な小児がん治療薬へのアクセスを強化するセント・ジュードとのパートナーシップによる補完的なプログラムの開始を強調。

新しい WHO 事前認証電子システム (ePQS) ポータル：2024年1月までに開始予定

医薬品、診断薬、ベクター制御製品、ワクチン、予防接種装置、品質管理研究所および検査に関する事前認証情報を処理するためのプラットフォームがPQユーザー向けに開発され、2024年1月1日までにePQシステムポータルが公開される予定。

9月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・破傷風 ・自殺 ・オピオイドの過剰摂取 ・医療施設の電気 ・家族計画・避妊方法 ・患者の安全
- ・毒蛇咬傷 ・飲料水 ・塩分の削減 ・非感染性疾患 ・狂犬病 ・ボツリヌス症

10月

October

アルマ・アタ宣言 45 周年、アスタナ宣言 5 周年

プライマリ・ヘルス・ケア (PHC) に関する宣言を記念し、「PHC の政策と実践：より良い結果のために」国際会議を開催。

WHO 規制・事前認証部 (RPQ) の活動評価

WHO の RPQ は「医薬品のライフサイクル全般にわたる規制に関する様々な利害関係者間の協力を促進する」部署で、2018 年から 5 年間の RPQ 活動を評価。

「WHOeyes」で視力チェック

WHOeyes は、無料のスマホアプリで、視力障害の早期発見・早期治療に役立つ。

マラリア予防に R21 / マトリックス M ワクチンを推奨

WHO の予防接種に関する戦略的諮問委員会およびマラリア政策諮問委員会は、小児のマラリア予防には R21 / マトリックス M ワクチンを推奨。

自発的な男性陰茎包皮切除手術 (VMMC: 割礼) は高い HIV 感染予防効果

UNAIDS の年次報告書「エイズを終わらせる道」で、VMMC はシンプルで安全な処置で、異性愛者の男性における

HIV 感染のリスクを最大 60% 軽減するとした。

メンタルヘルスケアを改善するための新ガイダンス

WHO と国連人権高等弁務官事務所は、メンタルヘルスケアにおける虐待をなくし人権を促進するため、「メンタルヘルス、人権、立法：ガイダンスと実践」ガイダンスを発表。

難民・移民のメンタルヘルスケアを改善するための重要な 5 テーマ

WHO は「健康と移民に関する世界的エビデンスレビュー (GEHM-5)」報告書で「難民・移民のメンタルヘルス：リスク要因と保護要因、ケアへのアクセス」など 5 つのテーマ改善について概説。

出産による死亡の主要原因に取り組むグローバルプラン (ロードマップ)

WHO は、妊産婦死亡の世界最大の原因となっている産後出血に取り組むため、初のロードマップを発表。

10 人に 1 人が早産

WHO は「早産児は、生命を脅かす健康合併症に対して特に脆弱であり、特別なケアと注意が必要で、妊産婦とその家族を支援するサービスに対する真剣な投資

と、質の高いヘルスケアを提供することの緊急の必要性」を強調。

青少年の健康とウェルビーイング

WHO は、「青少年の健康のための世界的加速行動 (AA-HAI) ガイダンス」第 2 版を発表。

パンデミックに対応した疫学人材強化

訓練を受けた保健人材を確保することは、将来のパンデミックに迅速に対応するための基盤。特に人材を「供給」するプログラムとしての FETP と、その人材を対応の中核となるよう「要求」するパンデミック計画イニシアチブの異なったインプットと視点が必要。

大気汚染と健康に関する医療従事者の能力構築ワークショップ

「WHO 大気汚染と健康に関するトレーニングツールキット (APHT)」の評価を目的して WS を開催。

生後 6 ～ 23 ヶ月の乳幼児の補完食

WHO ガイドラインは、生後 6 ～ 23 ヶ月の乳幼児への補完食について、母乳児と非母乳児の両方のニーズを考慮して世界的な規範となるエビデンスに基づいた勧告を提供。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



マラリアに関する WHO ガイドライン

薬剤の屋内残留噴霧使用と、コミュニティレベルでの局所的な忌避剤の使用に対する条件付きの勧告に関する改訂情報が含まれる。

健康のための人工知能の規制に関する検討事項

健康のための人工知能（AI）に関する出版物を発表。AI システムの安全性と有効性や適切なシステムの迅速な提供、関係者間の対話促進の重要性を強調し、規制のための 6 分野（透明性、文書化、リスク管理、システムの厳格な評価など）を概説。

必須診断薬の新リスト – E 型肝炎ウイルス検査や個人用血糖測定器

2023 年版必須診断薬リスト（EDL）を発表。E 型肝炎ウイルス（HEV）と個人用グルコースモニタリング機器の項目が含まれる。

呼吸器病原体疾患への備えをサポートする新しいインフォデミック管理ツール

「ソーシャルリスニングのための公衆衛生的分類法」は、人々の会話を「原因、疾病、介入、治療、情報」という 5 ト

ピックに分類・表示する。このツールは WHO EARS（パンデミック中の人々の懸念を理解するためのプラットフォーム）にも追加される。

健康な高齢化のためのエビデンスと指標

以下のベースライン成果物に基づいた、健康な高齢化戦略についての WHO コンソーシアム報告書。1) 健康な高齢化のモニタリングツール 2) 高齢者の見える化 3) 健康の不平等と健康的な高齢化。

人道的環境における Covid-19 ワクチン接種

将来のパンデミックにおいて、人道的緊急事態の影響を受け支援を必要とする人々の疾病の診断、予防・治療に使用できるワクチン、治療薬、診断薬など、公衆衛生・医療対策（MCMs）への教訓や対応策についての報告。

狂犬病経口ワクチン投与に関する新たな推奨事項

狂犬病を撲滅するには、犬の個体数の 70% にワクチンを接種するだけで効果があり、その有望な選択肢の 1 つとして、経口狂犬病ワクチン接種（ORV）がある。

放置に終止符を：アフリカにおける顧みられない熱帯病対策、

この 10 年間の教訓

2016 年に開始された顧みられない熱帯病撲滅のための拡大特別プロジェクト（ESPEN）は 5 つの NTDs に取り組むための WHO の主力プロジェクトで、政治的、技術的、財政的資源を動員する上で極めて重要な役割を担っている。この報告書は 10 年間の成果から学んだ教訓をまとめたもの。

WHO と WADA、クリーンで薬物のないスポーツに協力する覚書に署名

世界反ドーピング防止機構と WHO は、アンチ・ドーピングと公衆衛生が交差する問題について協力し、情報を共有できるようにする 4 年間の覚書（MOU）に署名。

顧みられない熱帯病に関する診断薬の専門家審査パネルの新たな試験的スキームを導入

顧みられない熱帯病（NTDs）の診断における課題に対処するため、医療従事者のための NTD 診断ツールの品質保証とアクセシビリティを高めることを目的として、NTDs のための WHO 専門家審査パネル・パイロットスキームを導入。

10月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・不安症 ・マイコトキシン ・インフルエンザ（鳥その他人獣共通） ・インフルエンザ（季節性） ・衛生設備
- ・ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC） ・若者の暴力 ・気候変動 ・熱傷（やけど） ・トリコモナス症
- ・電子機器廃棄物（e-waste） ・白リン ・高齢者のメンタルヘルス ・ワンヘルス ・ポリオ